

## CIGS 経済×歴史セミナー(1)

### 歴史データを用いた経済セミナー・シリーズ第一回

- テーマ： 「相性のいい企業合併」：資産、販売地域、市場支配力  
日時： 2019年7月23日(火) 17:30~19:00 (懇親意見交換会:19:00~)  
※セミナー終了次第、当ビル9階にて懇親意見交換会を行います。  
会場： 東京都千代田区丸の内1-5-1 新丸ビル内  
セミナー会場： 11階キャノングローバル戦略研究所内 会議室3  
懇親意見交換会： 9階カフェテリア illy

#### 概要：

CIGSでは、研究主幹 岡崎哲二をプロジェクトリーダーに据え、長期歴史的データの経済分析から現代のさまざまな経済問題への含意を引き出すことを目的とした研究を行ってきた。その一つにエネルギー産業における企業ダイナミクス、企業間ネットワークと生産性に関する研究がある。

エネルギー、特に電力の低価格で安定した供給は、20世紀以降の経済成長にとって必須の基礎的な条件となっている。日本の電力産業は20世紀初めに多数の分散的な企業によって発展を始め、合併や企業間の連携を通じて大規模なネットワークを形成してきた。一方、企業合併は、近年、件数・金額ともに世界的に増加傾向が続いており、市場価格、企業価値、生産性、より広く経済厚生に影響を与える現象として、研究者、独占禁止政策当局、産業政策当局の関心を惹いている。戦前期の日本は、多数の合併が発生しただけでなく、それらが独占禁止政策の影響を受けなかった点で、企業合併に関する研究のための理想的な場を提供する。本セミナーでは、戦前日本の電力産業における合併を対象に、合併に関する企業のインセンティブと合併の結果、およびその政策的含意に関する研究成果を発表し、参加者との意見交換を行う。

#### Agenda：

##### ・発表と質疑 (90分)

【報告】岡崎哲二 (CIGS/東京大学)・若森直樹 (東京大学)

(タイトル) "Compatible Mergers: Assets, Service Areas and Market Power"

##### 論文要旨

この論文では、第二次世界大戦前の日本の電力産業に関する詳細なマイクロ・データを用いて、企業はどのような属性を持つ他の企業を合併の相手として選ぶ傾向があるか、また合併する企業の属性の組み合わせによって合併の効果がどのように異なるかを検証

した。戦前期の日本には合併規制がなく、また電力業で多数の合併が行われて十分なサンプルを得ることができるため、上のような問題を検討するための理想的な環境が得られる。分析の結果、①有形・無形資産の構成が相互に補完的な企業どうしの合併においては資産の効率的な利用を通じてコストが低下する傾向があること、②合併によって価格は上昇しないが、コスト低下を考慮すると市場支配力は上昇していること、そして③有形・無形資産の補完性は企業が合併相手を選択するには考慮されず、企業は営業区域の重なりが大きい企業を合併の相手とする傾向があること、が明らかになった。これらの発見は、規制当局が合併政策をデザインする際に、市場集中度だけでなく、合併の「相性」を精査する必要があることを意味している。

・懇親会（終了後）

つづきは、会場を移しまして同ビル9階の懇親会会場にて、ご親睦を兼ねた議論をお願いします。

【会場】新丸ビル9階カフェテリア illy にて

【開始】19:00～

Speakers' Profile :

■岡崎 哲二

東京大学大学院経済学研究科教授

三菱経済研究所兼務研究員

経済産業研究所ファカルティフェロー

Honorary President, International Economic History Association

日本経済史、比較経済史

■若森 直樹

東京大学大学院経済学研究科講師

産業組織論, 応用ミクロ経済学, 金融経済学, 医療経済学